

# みんな～、商店街に集まれ！

## 1. はじめに

### 崩れゆく地域と商店街の衰退

都市、地方を問わず、それらを構成する地域において、疲弊する一方の地域と発展する地域との格差が拡大している。特に、小都市においては、少子高齢化、人口流出による過疎化、地域産業の衰退と雇用の悪化が深刻化している。こうした中、規制緩和による郊外の大規模店の増加に伴い、街の中心的商業施設として活気があった商店街は、人々が訪れる機会が減少し衰退している。

### こどもの遊び空間と子育て環境

都市化は自然環境の減少のみならず、様々な面でこどもの遊び環境の豊かさを失う方向に進んできた。バブル経済もあり、都市開発でこどもを抱えた世帯は追い出され、街で見かけるこどもの数は減少した。かつて日本のこどもの遊びの中心は「道」であり、「道」が林、空き地、境内等の多様な遊び空間をつないでいた。しかし、モータリゼーションの進展により、こどもたちは「道」から締め出され、遊び空間は急速に減少した。

また、近年問題となっている少子化は、社会がこどもを育むものとなっていないことの表れである。少子化対策を働く女性にのみ絞ることには限界がある。

### 商店街に求められるものとは

商店街は「地域の顔」として重要な役割をもつ。まちづくりを進めるにあたっては、いかに商店街を活性化させるかがポイントになる。

また、地域の人口減少と少子高齢化を食い止めるには、こどもとこどもを育てる親にやさしいまちづくりが不可欠である。

そこで、商店街を中心とするこどもの遊び場と

子育て環境に関する提案をしたいと思う。

商店街を中心としたまちづくりには、個別商店（個店）レベル、商店街レベル、行政施策レベルの3段階があるが、ここでは商店街レベルの提案を行う。

## 2. 商店街に集まる

### ポイント

「どのような空間にすればよいのか？」

- 1) こどもが自然と集まることができる空間
- 2) 親がこどもを連れていくことができる空間

### 1) こどもたちが集まる

フランスの思想家ロジェ・カイヨワが著書「遊びと人間」でいうように、こども遊びには眩暈、競争、模擬、偶然といったこどもが夢中になる全ての要素が含まれている。この要素を含む最も重要な場所は自然環境であるが、このような場所は特に市街地の中には少ない。

こどもが楽しいというのは、こどもの主体的な心が刺激され、夢中になって遊ぶ「心の状態」である。つまり、最大の楽しい空間は、自然環境に限らず、皆で笑い、面白がり、楽しい時間を過ごす場所ではないだろうか。

こどもにとって楽しい空間は、日常の空間の中にこそ必要である。

遊び場を失い屋内にこもるこども達に商店街を開放することで、商店街が、かつて「道」が果たしていたような遊び場をつなぐ役割を担い、こども達が群れて遊ぶようになれば、商店街そのものの活気を取り戻すことができるのではないだろうか。

商店街をこどもの遊び場にするには、こどもが集まることができる工夫が必要である。

## 2) こども連れの親が集まる

少子化対策を考える上で、働く女性の仕事と育児との両立を支援することが重要であるが、こどもも欲しいが働きたい、あるいは働かなければやっていけない等、安心して子育てができる法制度整備が遅れているのが現状である。

政府は、少子化対策、出産・子育て支援として補助金を出しているが、真に求められているのは、施設の充実やサービス内容の向上である。

近年は、産科医の不足が深刻化し、また保育施設の不足により「預けたくても預けられない」という保育待機児童が増加している。

保育施設に預けたとしても預かってくれるのは夕方までであり、病気の際には預けることもできない。夜間保育や感染性以外の病気の場合、預かってくれる施設もあるが、料金も高くなる。

小学生の場合、低学年だと帰宅も早く、核家族で共働きであれば、一人で留守番というこどもも少なくない。

若いこどもを持つ親にとって、こどもを連れての買い物はそれだけで大仕事であり、ちょっとした買い物でも、不便な商店街よりも、売り場面積が広く欲しいものをまとめて購入できるスーパーや郊外の大型店に足を運ぶことが多くなる。

子育ては家庭だけでなく、親類の協力も不可欠であるが、もっとたくさんの協力が必要である。

こどもは家庭だけでなく、地域そして国の財産である

身近な商店街が中心となって、地域のこども、そしてそのこどもを育てる親をサポートする仕組みが求められる。

こども連れの親が商店街に集まることのできる工夫が必要である。

### 3. 商店街の工夫

#### ポイント

「商店街を 2. に述べたような空間にするにはどうすればよいか？」

#### 1) こどもが集まる工夫

#### 2) こども連れの親が集まる工夫

#### 1) こどもが集まる工夫

以下、こどもが集まる工夫を列挙する。

##### ■ 無料図書館

住民の古本を集めて、自由に読書できる場所を作る。読書だけでなく勉強もできる環境にする。

##### ■ 図画コーナー

廃材等と工具を置いておき、自由に工作ができる場所を作る。また、ミスプリントや広告等の裏紙と鉛筆（クレヨンや絵の具）を置いておき、自由に絵を描ける場所も作る。休日には親子で遊べるようにする。

##### ■ 小さな動物園（小さな水族館）

商店街の住民のペットと触れ合う場所を作る。

##### ■ 遊び大会

商店街を舞台にして、かくれんぼや鬼ごっこといった遊び大会を開催する。

##### ■ 秘密基地

こどもたちの拠点となるようなスペースを作る。

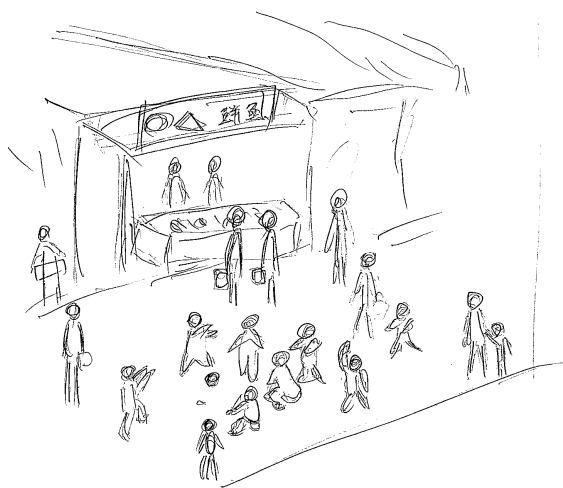


図1 商店街で遊ぶこどもたち

#### 2) こども連れの親が集まる工夫

以下、こども連れの親が集まる工夫を列挙する。

##### ■ こどもを自由に遊ばせる空間（遊び広場）

1) と同様、こども達が集まる場所を作り、親はこどもが遊んでいる間に買い物する。

#### ■ 乳幼児連れの親のためのベビールーム

乳幼児の授乳やオムツ交換ができる場所を作る。

#### ■ 商店街内で自由に使用できる買い物カート

子どもや荷物を載せるために、商店街共有の買い物カートを置く。

#### ■ 監視の目

遅くまで商店街にいる子どもや、仕事で遅くなった親のために、夜間においても当番制で営業するようにする。また、日常的に、何かあったときに子どもが逃げ込める体制を作る。

#### ■ 保育コーナー（子ども預かりコーナー）

親の帰宅まで子どもを預かる。その代わりに、商店街で買い物してもらう。

ここで、大事なことは、これらの取り組みを行政主導ではなく、あくまで商店街が中心となって実施することである。



図2 商店街に集う人々

## 4. おわりに

商店街が作り出すものは、商業機能にとどまらない「地域の顔」としての役割である。地域の活性化において、商店街の活性化は不可欠である。

イベントによる集客は一時的には人が集まるが、大事なことは日常的に人を集めることができるかである。そして、街の賑わいには、子どもの

存在が不可欠である。

都市化の進んだ現代において、自然の中で遊ぶことは日常的には少なくなっている。しかし、子どもが遊ぶために必要なことは、擬似的な自然を与えることだけでなく、まずは子どもが集まって、群れて遊べる場所を作ることである。

さらに、その場所は生活空間に近接する必要があり、「近所で遊ぶ」ということが大事である。

また、安心して子どもを遊ばせるためには、ある程度の監視の目が必要である。人気の少ない公園で遊ぶより、遊びの制限はあるものの大人の目が届く商店街で自由に遊ぶほうが安心ではないだろうか。

商店街、そして地域の衰退の大きな要因である少子化を食い止めることが、商店街の活性化、さらには地域の発展に寄与するはずである。

みんな～、商店街に集まれ！

#### 【参考文献】

本間義人：地域再生の条件

安藤靖華：商店街衰退のリスクからその再生を考える

木下勇：子どもが楽しい空間づくり

吉野正治：市民のためのまちづくり入門

宮原好きネット：まちづくりの伝道師達

仙田満：子どもの成育環境と遊環構造